

Freude

vol. 14.18 2021.3.31.wed

明日から新学期?

大阪フロイデ合唱団 Tel 06-6358-2626
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-18-4B
ホームページ <http://www.osakafreude.com>
メールアドレス info@osakafreude.com

はいどん どん どん ♪

ハイドン 64歳~70歳のあいだ、エステルハージ侯爵夫人のために描かれたミサ=後期6大ミサ
実は、どんな曲があるのか知らんし!?

ということで~、先週に続いて、ハイドンうんちくシリーズ「ハイドンの後期6大ミサ」って?
時代背景といたしましては、1796年~1802年で、まさにフランス革命⇒ナポレオン、というヨ
ーロッパが揺れに揺れたときですよ~。

戦時のミサ 八長調 1796年。

アニユス・デイでティンパニが活躍するため『太鼓ミサ』とも呼ばれる。作曲当時、ハプスブルク
家は第一次対仏大同盟の一員としてフランスと交戦していたが戦況は思わしくなかった。題名は当
時の状況を反映している。

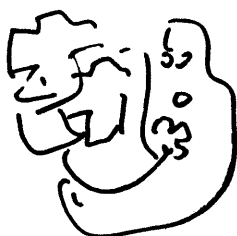
ソプラノ、アルト、テノール、バス独唱、4部合唱。 オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、
ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽器、オルガン

ハイリッヒ・ミサ 変口長調 1796年。

正式名称『オフィダの聖ベルナルドのミサ』オフィダのベルナルドは17世紀のカプチン・フ
ランシスコ修道会の僧で、1795年5月19日に教皇ピウス6世によって列福された。その聖名祝
日である9月11日が、エステルハージ侯爵ニコラウス2世夫人マリア・ヘルメンギルデの聖名祝
日である9月8日に近いため、両人を兼ねて賛美するためにアイゼンシュタットのベルク教会で
初演された。ただし、自筆楽譜では『戦時のミサ』も同じ1796年に書かれており、どちらが先に
作曲されたかについては議論が分かれる。

「ハイリッヒ」とは、本曲のサンクトゥスの中にオーストリアの古い教会音楽「Heilig, heilig, heilig,
du bist allzeit heilig」が引用されていることによる(ハイリッヒはサンクトゥス(聖なる)に相
当するドイツ語)。

ソプラノ、アルト、テノール、バス独唱、4部合唱。 オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2
(ホルン2)、トランペット2、ティンパニ、弦楽器、オルガン



4/17(水)
18:30~ (1分)
天王寺区民

4/11(日)
13:15~ (1分)
小田比.

4/14(水)
18:30~ (1分)
天王寺区民

ネルソン・ミサ 二短調 1798年。

ナポレオンの勢いが最も盛んな時、1年足らずの間にオーストリアに対して4回も戦勝をおさめていた。その前年、1797年には、ナポレオンが率いるフランス軍はアルプスを越えウィーンを脅かしていた。1798年5月には、イギリスの交易路を絶つためにエジプトへ遠征を行っていた。

かくして、1798年の夏はオーストリアにとって恐怖の時代であり、ハイドンは作品目録において自らこの作品を「困苦の時のミサ (*Missa in Angustiis*)」と名付けた。

初演は9月15日であったが、8月1日にはナイルの海戦でホレーショ・ネルソンの率いるグレートブリテン王国艦隊がフランス艦を撃退していた。この偶然の一致ゆえ、本作品は次第に「ネルソン卿のミサ (*Lord Nelson Mass*)」と呼ばれるようになった。1800年には、ネルソン自身がエマ・ハミルトンとともにエステルハージ宮殿を訪れ、おそらく本作品の演奏を聴いた。この出来事によって、「ネルソン卿のミサ」という呼称は決定的なものとなった。

ソプラノ、アルト、テノール、バス独唱、4部合唱、トランペット3、ティンパニ、オルガン、弦楽器。

テレジア・ミサ 変口長調 1799年。

『ネルソン・ミサ』が作曲された1798年にエステルハージ家の楽団には管楽器奏者がひとりもいなかったが、本曲でもトランペット以外の管楽器の活躍は少ない。(翌年、1800年に8人に増員された。)

ソプラノ、アルト、テノール、バス独唱、4部合唱。

クラリネット2 (、ファゴット)、トランペット2、ティンパニ、弦楽器、オルガン

天地創造ミサ 変口長調 1801年。

グローリアにオラトリオ『天地創造』第3部のアダムとイブの二重唱「優しき妻よ」(*Holde Gattin*)の一部が引用されているためにこの名がある。1801年はオラトリオ『四季』を完成した年にあたる。本曲は1801年7月28日に作曲を開始し、9月13日にアイゼンシュタットのベルク教会で初演されたが、すでに70歳近い老齢のために作曲ははかどらず、初演の2日前になっても完成しなかった。ホルン、トランペット、ティンパニは自筆譜には記されず、直接パート譜が作られた。また初演ではハイドンが自分でオルガンを演奏した。しかし完成した音楽そのものには急いで書いたようなところは全く見られない。

前作の『ネルソン・ミサ』や『テレジア・ミサ』では管楽器奏者が不足していたが、この曲ではふんだんに管楽器が使用されている。

ソプラノ、アルト、テノール、バス独唱、4部合唱。 オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽器、オルガン

ハルモニー・ミサ 変口長調 1802年。

ハイドンの後期六大ミサ曲の最後の曲であり、70歳に達したハイドンによって書かれた最後の大作でもある。「ハルモニー」とは管楽器のことで(ハルモニームジークを参照)、本作では管楽器が最大規模に達している。1802年9月8日にアイゼンシュタットのベルク教会で初演された。

それまでのハイドンのミサ曲とは、キリエとベネディクトゥスの速度が逆になっている。

ソプラノ、アルト、テノール、バス独唱、4部合唱。 フルート1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽器、オルガン